

大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業 事後評価結果

大 学 名	名古屋大学
-------	-------

◇大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <b style="font-size: 2em;">A	<p>目的は概ね実現された。</p>
<p>(コメント)</p> <p>拠点大学の国際化については、一定数の学生交流、教員交流が進んでいるものの、数だけではなく質の確保も重要であるため、更なる情報発信により優秀な学生の確保に努め、一層のキャンパスの国際化が望まれる。また、近隣大学と連携して、貴学の教育研究拠点を活用した教育プログラムを開発・実施することによるアジア地域との交流を推進していることは評価できる。</p> <p>英語による授業のみで学位が取得できるコースについては、計画どおり開設され、多くのコースで志願者数が増加しているものの、期待されている分野を精査して一層志願者数を増やすことが望まれる。また、大学院のコースについては、日本人学生の在籍者がいないことから、日本人学生と留学生とが共に学ぶことが国際化であることを考えると、留学生のみならず日本人学生にもアピールするようなコース内容の強化が望まれる。</p> <p>留学生受入のための環境整備については、宿舍の整備、学内文書の英語化、ワンストップ・サービスデスクの開設や就職支援を含めたトータルなサポート体制を構築している。</p> <p>海外大学共同利用事務所の整備については、ウズベキスタン事務所を計画どおり開設し、例年一定数の出願者を得ている。また、留学説明会やTV会議システムを使った入試面接等、他大学との共同利用が進んでおり、カザフスタン、キルギスなど周辺の中央アジア諸国への広報拠点としての機能展開や現地におけるネットワーク構築が行われていることは評価できる。</p> <p>目標の達成状況については、大学間交流協定等に基づく交換留学における派遣・受入学生数は目標を大きく上回っているため、評価できる。一方で、外国人教員の採用は進んでいるが、目標を下回っているため、今後の改善が望まれる。</p> <p>今後の展開及び高等教育の国際化に対する貢献については、国際化に対する明確なビジョンを持って戦略的に進めることを期待する。貴学が持つ学術的潜在力からすると現状は決して満足できるものではなく、事業の継続及び発展に向けて、全学の意識共有を図ることが重要である。また、産業の集積地という地域性を考慮し、周辺地域も含む真の国際的キャンパスとなるような取組を期待する。</p>	